映画&DVD紹介 MOVIE & DVD REVIEW

福島　六ケ所 未来への伝言

２０１３年、島田恵監督作品。原子力施設を抱える地域で暮らす人々の苦悩を描いたドキュメンタリー映画。島田さんは、チェルノブイリ原発事故（1986）後、核燃サイクル基地建設で揺れていた青森県六ケ所村に住み、核燃施設が建設されていく様子を見つめ、全国の原発から出る核廃棄物の集積場となっている六ケ所村をテーマに、２０１１年２月、映画製作を開始した。その翌月、福島原発事故が起き、彼女は福島に向かい、原発社会の「入口」と「出口」を描くことにした。福島の被災者の避難生活、放射能に苦しみながら有機農業を続けている一家、核燃基地に反対してきた漁業を営む一家が、太平洋沖のマダラから高濃度の放射能が検出されて獲った魚を海に捨てている様子。一方、原発事故後も、核燃関係の仕事を失ってしまう不安を語る六ケ所村の夫妻、村の財政を危惧して推進を訴える村議の様子などを優しい視点で描いている。この映画の終章の自然は美しく、加藤登紀子さんの主題歌「命結―ぬちゆい」が一体となって、放射能という「負の遺産」をこれ以上増やし続けることの責任を問いかける。

問合せ先：六ヶ所村みらい映画プロジェクト事務局
電話 042-727-8559 / 070-6523-8559
http://www.rokkashomirai.com/

地球のことを考えて行動する日、アースデイ
THE EARTH DAY　THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY!

毎年10万人以上のひとが集う、アースデイ東京2014
日程：2014年4月19日（土）・20日（日）
会場：代々木公園、渋谷、原宿、表参道、ほか

地球に感謝し、美しい地球を守る意識を共有する日。1970年から始まり、「アースデイ東京」は、愛と平和と地球をテーマに2001年から代々木公園で歩み始めました。

地球環境、貧困、飢餓、紛争、人権など地球規模の課題から、食、農、エネルギーなどより身近な話題まで、様々な情報を多彩に発信。課題解決に取り組むスタッフの生の声を伝え、来場者と対話し、多くの方々に地球と私たちの未来を考えて行動を起こすためのきっかけを提供します。

問合せ先：アースデイ東京2014実行委員会　事務局
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-23
TEL: 03-5315-4405
URL: http://www.earthday-tokyo.org/2014/

憲法9条にノーベル平和賞を
THE NOBEL PEACE PRIZE TO THE JAPANESE CONSTITUTION ARTICLE 9

「ひとりの母親の運動ひろがる」1月3日の「東京新聞」にこんなタイトルの記事がありました。座間市に住む３７歳の女性が、戦後７０年近く日本が戦争を免れたのは９条があり、これを護った国民がいたからだという事実を世界に認めて貰う機会として、ノーベル平和賞へのキャンペーンを思い立ったそうです。昨年ＥＵ（欧州連合）が地域の統合により国家の和解と平和を求めた、として平和賞に選ばれた、ことにヒントを得て「９条を護っている日本国民」を思いついた。そして実行委員会を立ち上げ、賛同者を募る活動をはじめました。別枠として推薦資格をもつ大学教授などが直接委員会に送るなど、なるべく多くの賛同者がアピールするという活動です。2月1日の締め切りを目指して、主にネット上で賛同者をつのり、2月9日の報告によれば２４,０００人余の署名が委員会に送られたそうです。受賞に至らなくても、ノミネートされることで、改憲にこだわる安倍政権へのプレッシャーになると期待がもてる妙手、と報じられています。

過去に佐藤栄作元首相が「非核三原則制定を評価されて同賞を受賞していることから、今年だけに限らず毎年訴えることも可能とのこと。９条保持は世界の願い、として国民が護る草の根活動が評価されることを期待しています。

東京都　竹内希衣子　KIIKO TAKEUCHI

お知らせ　NOTICE

WARD総会開催　THE 23th WARD GENERAL MEETING

４月２９日、第２３回ＷＡＲＤ総会を東京都渋谷区桜丘で、下記の通り開催します。フォーラムでは、多様な生き物が棲める緑豊かなまちづくりを、どうしたら実現できるかを話合い、これからの実践活動につなげます。特に東京は、６年後にオリンピックがあります。世界の人達に多様な生き物と共生している緑豊かなエコ東京をお見せし、都市の進むべき道を示したいものです。皆様の参加をお待ちしています。

記

＊日　　時：４月２９日　１３：２０～１６：００
＊場　　所：渋谷区文化総合センター８階アイリス会議室
ＪＲ渋谷駅中央改札より西口に出て南方向へ徒歩約５分（国道２４６を超えてセルリアンタワーとインフォスタワーの間に位置します）
＊プログラム：１３：２０　総会議事、感謝状贈呈
１４：００　フォーラム「生き物がマチを育てヒトを育てる」基調講演　永井伸一教授
パネラー松香光夫教授、佐々木正巳教授
１６：００　閉会
＊参加登録：準備の都合上、参加希望者は、４月１５日までにはがき又はＦＡＸで事務局にご連絡下さい。
＊当日の緊急連絡先　090-4754-6706 & 090-8840-7344

◆ 会費納入のお願い　MEMBERSHIP FEES ◆

２０１４年度会費納入の郵便振替用紙を同封させて頂きました。正会員の会費は1口（千円）以上、賛助会員の会費は1口1万円です。納入は随意ですが、ご都合宜しければお願い致します。尚、領収は振込時の領収証で代えさせて頂きます

WARD　43号（2014年3月20日発行）
発行人　渡辺英男　　定価150円
編集人　加藤正彦
WARD事務局　〒152-0003　東京都目黒区碑文谷5-4-21
TEL ０３－５７２１－１９９２　FAX ０３－５７２１－８３８３
http://www.interq.or.jp/earth/ward/

WARD ウォード
World Association of Representatives for Descendants
―世界子孫代理人会―
to descendants

全ての生物が共存するための環境教育
ENVIRONMENTAL EDUCATION FOR ALL CREATURES TO COEXIST

人口と欲望をどう抑えるか
HOW ARE POPULATION AND DESIRE CONTROLLED?

地球の人口が72億を超えた時点で地球環境を持続可能なものにするためには人口問題と現代人の欲望をどう抑えるかを現実の世界と子孫の立場に立った観点で根本的に検討しなければ「持続可能な社会」は絵に描いた餅になってしまう。しかし世界で栄養失調状態にある人口は2012年には8,4億人であったと国連食糧農業機関（FAO）は報告している。この数字と南と北の格差を重視するため、世界の指導者たちは自国の利益、経済成長を優先している。しかし、やさしい情緒や倫理に訴える手法には限界がある。地球全体で細かいルールをつくり、人の行動を制約しなければならない。つまり生命圏の維持に好ましいことは優遇し、好ましくないことは規制することである。

環境教育はこの事実を子供たちに限りある資源を使って人類が生き延びる為には「植物中心の世界にし、他の生物との共存を計らねばならない」ことを伝えることである。歴史的にみると江戸時代ほど人間が植物とうまく共存していた時代はない。目先のことしか考えない西洋流の科学技術と違って、ほとんどの「生活品」を植物から造り、日本列島がその年に受ける太陽エネルギーだけでリサイクルできるシステムであった。

このように環境に対して悪影響がなく、自然生態系のなかで生活しながら、かなり高度な文化水準を維持していたのである。これがわが国の「里山」で自然を管理しながら、生態系の中で生きていたのである。一方海で重要なのが全国的に存在した干潟で、ここには珪藻や底棲動物、ゴカイや貝類、魚類等の動植物の宝庫であると同時に干満による自然浄化能力が高い場所であった。

世界中の異常気象は最近のフィリッピン災害、２年前の東北大災害などは数えられないくらい遭遇していることは子供達も実感していることである。これは明らかに人間の活動によるものであること、もはや温度上昇は2℃に抑えられないことがIPCCの報告でされた。これは自然生態系の破壊からくるもので、水不足、食糧不足をもたらしている状態を授業や実習で教えなければならない。

子供たちは実験・実習で地球の未来を認識する
CHILDREN RECOGNIZE THE FUTURE OF THE EARTH IN AN EXPERIMENT AND TRAINING

もはや小学生でも科学の観察、アサガオの栽培、ゴミの収集・再生、電気をこまめに消すことも大切だが、持続可能な地球に耐えうる知識を得ることはできない。より現実的で、科学的な知識と実習を行い、自分たちの将来がないことを感じさせなければならない。その実習を２日間、140名の横浜市鶴見区の馬場小学校５年生で行った土壌動物の観察と検索では、森林と学校の庭から土を採集し、白い紙の上に土を少しずつ広げ、ピンセットと吸虫管を使ってすべての虫を集めた。それを属のレベルで調べ、両方の土壌に生存する土壌動物を比較した。その結果、森林の土壌には思いがけない多くの動物が観察できたのに対して校庭の土壌にはごく少数の動物しか見られなかったことから、人工的な土壌は貧弱で、そこでは多くの植物が生育できないことに気付いてくれた。落ち葉や枝はカビの菌糸が分解するが、その前にミミズやダニが落ち葉を砕き、その後バクテリアが分解し、無機の窒素やリン、カリウムとなり植物に吸収される。この過程を理解し、土壌動物が生態系の維持に役立つことを認識してくれた。

土壌動物の実習 Training of soil animal

ドイツの環境教育への取り組みは国全体のものとして行われ、実際ドイツのハノーバーの環境教育センターでは数年かけてゴミや落ち葉が分解する様子を観察している。

またアメリカのイエローストーン公園では園内で動植物が自然の状態で生息するために、頑丈な鋼鉄製のゴミ箱を設置し、ゴミを漁れないような工夫がされているのを見ることができた。このような世界の取り組みに接することも必要である。それに引き替えわが国では机の上での話と講演が主体で、実習でも前記のごとき本質を理解させる体験学習がなされていない。

小生もコンクリートを壊しビオトープ、緑のカーテン、鎮守の森を生徒に作成させることによって学業の平均点も20点から30点上昇した経験がある。これは自分たちが自然の中で生きていることを感じたことから、それを変える科学と考え方（哲学）が大切だと気付き、学業にも力が入るようになったのだと思う。まさしく命の源「緑と水」の保存は大切なものだと感じたからだと思う。元々人間は自然から生まれ自然の中で長い間生活していたので、現在の人工的な環境では人間本来の脳の働き、ことに感情・情緒の部分が狂ってきたので、これを人類の生存を左右する哲学に変えるために様々に実行している。

獨協医科大学名誉教授・WARD副会長
永井伸一　SHINITI NAGAI

ドイツは世界に示す道を確実に歩んでいる
GERMANY IS FOLLOWING CERTAINLY THE WAY SHOWN IN THE WORLD

―最新のドイツの原発事情について―
UPDATE OF THE NUCLEAR POWER PLANT IN GERMANY

２０１４年1月１４日、ドイツのエネルギー水道事業連合会は昨年のドイツの総発電量のうち、風力など再生可能エネルギーによる発電が２３．４％で過去最高を更新したと発表しました。ドイツでは東京電力福島第一原発事故後に「脱原発」を加速させ、２０２２年までに原発ゼロをめざしています。

このようなドイツ世論がどのようにしてつくられたのかについては２０１１年４月４日から５月２８日まで、メルケル首相が倫理委員会を主催し、テレビ中継による公開の議論を経た報告書「ドイツのエネルギー転換・未来のための共同事業」があります。この報告書が、ドイツの脱原発を論理的側面から方向づけました。

もともと原発推進者であったメルケル首相の原発推進路線を１８０度方向転換の契機となったのは、日本の福島原発事故でした。メルケル首相によって臨時に招へいされた倫理委員会のメンバーには原発関係者も緑の党関係の人も含まれておらず、元環境相やドイツ研究振興協会の会長、カトリック司教、財界人、消費者団体など17人の委員が選出されました。

緑の党　「自然エネルギーの仕事は地域を活性化する」

政党 SPD の広告「未来のために100%自然エネルギーを」

これはどのようなエネルギー政策を求めるかという重大問題は社会や消費者が決めるべきだという考え方によるものです。原発容認派と反対派は半々ほどでしたが、いつかは原発を廃止したほうが良いという点では委員会は一致していました。しかし最大の問題は事故が起きた時のリスクが、ほかのどのエネルギーより大きく、国境を越えて世界に被害を与えてしまう事、そして次世代に高レベルの放射性廃棄物という問題を残してしまう事でした。

以上の理由で原子力は「倫理的ではないエネルギーである」と委員会は結論づけ、一時的な経済的な利益が優先されるのではなく、安全性が優先されなければならないという明確な倫理性と論理性が示されたのです。

日本は福島原発のあと菅直人元首相のもとで「脱原発」路線を進め、自然エネルギー推進の方向を進めようとしました。経産省のもとで委員会が設置され経済系、金融系、環境系の人や研究者、消費者団体代表など２５人による議論が進められました。しかし、会長が鉄鋼会社の人であったため、環境派の議論が取り上げられず「脱原発依存」という方向ではじまったのにもかかわらず、原発を増設する案までも委員会が結論づけてしまいました。同じ重大な議論をしているのに、議論を公平に民主的に進めていこうという土台ができていないと、日独でこのような違いがおきてしまうのは非常に残念です。

私が２０１０年ニィダーザクセン州ハノーバー市の電力会社を視察した際、「ドイツは電気需要が不足した際はフランスの原子力発電によって作られた電気を輸入しているのではないか?」という質問に担当者は現時点でドイツは電気を逆にフランスに供給している発電輸出国だ。問題はどれだけ自然エネルギーに切り替えていくかだ。」と答えていました。

ドイツで現在、問題になっている一つには原子力発電所を自然エネルギー発電に切り替えていくための３６００kmにおよぶ送電網の配備があります。送電網の工事が進まないうちに原発発電をとめていくと一部の地域で停電がおこる危険性があるからです。もう一つは自然エネルギー発電を普及させていくために一般家庭は割高な賦課金を課せられる問題があります。鉄鋼や化学産業など電気を多く使う企業はこの賦課金が一般家庭より割り引かれているので社会に不公平感が高くなっているのです。しかしこれらはプロセスの問題であり本論である脱原発路線を国民の９割は支持しており、ドイツは脱原発社会の構築という人類の未来に対しての論理性の正しさと覚悟を世界に示す道を確実に歩んでいます。

独協学園中学高校教諭、東京家政大学講師
塩瀬治　OSAMU SIOZE

ハノーバー市　市による子どものためのエコハウス授業風景

原発とは何物ですか
WHAT IS NUCLEAR POWER PLANT

ここ暫く、日本の原発は１基も動いていません。原発ゼロでも電力を賄える事を証明しています。一方、福島第１原発の４基は３年を経た今も収束の目処が立たず、危険な状態です。事故を惹き起こした東京電力は、右往左往するばかりで、どうしてよいか分からないようです。放射能で汚染された広大な土地は放置され、１５万余の人達が家を追われたままです。放射性廃棄物の行き場もなく、子孫たちへの負荷は想像を絶します。

この様な状況で、半永久に消えない放射性物質をこれ以上増やすことは倫理的にも許されませんが、日本政府は再稼働を明言しています。「後は野となれ山となれ」で、子孫への配慮などありません。

パンドラの箱・・・その戒めの言葉があるにも拘わらず、寒村に、持参金付馬を持たせたのが運命の始まりでした。やがて、うまい話は続かず、３．１１で、馬脚を露したのです。文科省が旗振りした、５重の壁に守られている世界一安全な原発も、原子ムラの住人やカラクリも露呈したのです。これ偏に身から出た錆、自業自得です。それを他地域の住民まで巻き込まれているのです。ここ福島県は一部を除いて、広大な放射性管理指定地です。幾世紀も続く放射線の負を私たちまで背負うことになってしまいました。誰も責任を取らなくてもよい法律のもと、罪と罰は、行き場を失っているユートピア国家、日本です。多くの犠牲の上に立って・・・。

日本のメディアは本当のことを伝えていません。例えば、３．１１の翌日、浪江町の住民は、安全と思われる村に向って移動しましたが、そこが浪江町の街よりも放射線量が高かった事を、８月のニューヨーク・タイムズのレポートが公開されるまで知りませんでした。福島原発事故に関する報道は、海外メデアの方が的確です。例えば、２０１２年に公開された、ドイツＺＤＦテレビ制作「フクシマの嘘<Die Fukushima-Luge>」の動画（日本語字幕付）などをインターネットで見るとよく分かります。

メディアの恐ろしさ、国民を再び井の中の蛙にするのではないかと心配です。日本の隠蔽体質、メディアのコントロール、大本営がどんな罪を犯したか？大戦を経験したひとしか知らないのです。ウソは必ずバレることを肝に銘じて欲しいです。

福島県　鈴木良子　RYOKO SUZUKI